

平成 28 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (3月31日)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程の編成に工夫を凝らし、生徒の意欲や関心の高揚に取り組む。</p> <p>② 国際社会で生き抜く高い人格と心豊かな感性を備えたグローバルリーダーの育成に取り組む。</p>	<p>① セメスター制導入におけるコースの特色を明確に提示してゆく。</p> <p>② 「多文化共生力」の根本となる、多面的・多角的視点からなる批判的思考力・協働型問題解決能力の育成をめざす。</p>	<p>① 各教科において教育課程編成の見直しを具体的に検討する。</p> <p>② グローバル教育展開に基づく、組織的授業改善を行う。</p>	<p>① 各コースにおいて進路希望に即した教育課程を編成できたか。</p> <p>② グローバル教育展開に基づく、組織的授業改善を各科目で行うことができたか。</p>	<p>① フィールド科目の精選を主に行ったほか、国際文化コース卒業要件の見直し、理系進学希望者に対する数学のセメスター制導入案作成等、具体的に提示できた。</p> <p>② 教科の特性に応じ、ほぼ全ての科目で生徒の思考過程や結論の発表・共有・議論の場を設定した授業を行った。育成が求められる技能・素養を全体で共有した上で、10～11月に8教科12回の研究授業を行った。</p>	<p>① Aタイプ校として数学以外でのセメスター制の導入の検討や希望する進路実現のためにさらなる科目の見直しが必要である。</p> <p>② グローバル教育推進をめざし、様々な課題についての認識を深めさせるため、今後は教科横断型の学習について、教科内・教科間の両面から企画立案し実践することが求められる。</p>	<p>① セメスター進行による科目を、生徒が自分のペースで選択できる点で神奈総らしく、評価できる。</p> <p>② 社会に出て行く際に求められる能力の育成について、全ての科目で幅広く、少しずつでも学力を伸ばすよう工夫を重ねてもらいたい。</p>	<p>① セメスター制の特徴を活かした履修方法に工夫を凝らした。</p> <p>② 今後、学力向上とグローバル教育推進に基づく組織的な授業展開にいつそう工夫を凝らし、学校全体で改善に取り組むことが課題である。</p>	<p>① 実状に鑑み、年間教育計画に工夫を凝らし、学習活動の観点から整理し充実させる。</p> <p>② 授業改善に関するテーマを設定し、教職員間で共有化することで学校全体で組織的に取り組む。</p>
2 生徒指導・支援	<p>生徒一人ひとりの個性を伸ばすことができる教育支援を実践し、生徒にしっかり向き合った教育体制の充実を図る。</p>	<p>① 教育相談コーディネーターを中心として、組織的な教育相談の体制を整備する。</p> <p>② 異文化理解への柔軟性を高め、グローバルな社会的な課題への認識を深める。</p>	<p>① 月に一度、教育相談コア会議を開催し、問題を抱えた生徒についての情報を共有する。さらに、ケース会議を通じて、その情報を職員全体で共有する。</p> <p>② 異文化への柔軟性を育てるため、国際交流プログラムの中身を見直した上で、多彩な交流活動を実施する。グローバルな課題への認識を深めるため、グローバル教育エキスパートレクチャーなどを実施する。</p>	<p>① 教育相談コア会議の場で提示された情報を、職員全体で共有することができたか。</p> <p>② 国際交流プログラムの中身を見直し、異文化理解への柔軟性を育てることができたか。グローバル教育エキスパートレクチャーなどを通して、グローバルな課題への認識を深められたか。</p>	<p>① 本校に在籍する生徒の中には、教育活動を展開するうえで配慮を要する生徒が在籍しているので、教育相談コーディネーターを中心として、まず各年次で情報を共有化すると共に、必要に応じて職員全体に情報を提供し、生徒理解に取り組んだ。</p> <p>② グローバル教育エキスパートレクチャーに加え、7月は1泊2日のグローバルキャンプを実施し、11月には韓国や中国よりそれぞれ生徒を1日受け入れ、交流活動を通して、異文化理解への柔軟性、及びグローバルな課題への認識を深めることができた。</p>	<p>① 配慮を要する生徒の対応について教育的な効果に鑑みて事故防止と教育効果の観点から生徒理解に努め、保護者を含めて学校全体で取り組むことが求められる。また必要に応じて人的な配置について配慮が必要である。</p> <p>② 異文化理解の観点から、英語圏以外の交流をふやすとともに、国際交流プログラムでは、姉妹校変更に伴い、尚一層充実した交流活動に工夫を凝らすことが求められる。</p>	<p>① 隔週で来校するカウンセラーを十分に活用して、学校生活に積極的になれない生徒や、また保護者への対応に当たって頂きたい。</p>	<p>① カウンセリングの希望者が多く予約することが難しくなっていることも今後の課題である。</p> <p>② 生徒が充実した学校生活を送ることができるよう様々な方法での支援が求められている。引き続き、教職員対象の研修を実施し、生徒理解に繋がる学校体制の整備が課題である。</p>	<p>① 教科担当者や年次会を迅速に実施し有効な支援につなげる。</p> <p>② 様々な機会を活用し、生徒理解に繋がる研修内容の充実を図り生徒と保護者を支援する。</p>

3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化した進路支援の流れを作り、生徒が自らの将来像を見据えて早い時期に目標を定められるよう情報提供を行い、多様で主体的な進路選択を促進する。	自己目標発見機会のタイムリーな提供と進路情報リテラシーを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ① カレッジセミナー、エキスパートレクチャー、外部講師による進路説明会等を実施する。 ② 校内模試の実施、校外模試・オープンキャンパス・学習ツール等に関する情報や入試に関する情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① カレッジセミナー、エキスパートレクチャーの実施やオープンキャンパスへの参加により生徒の意識に変革はみられたか。 ② 学習ツールの利用により生徒の学習状況に変化は見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各行事を実施した後のアンケート等を分析すると、進路実現に向けての意識の向上が見られた。 ② 動画視聴による学習ツールの申し込みを学校を通して行った結果、約250名を越える申し込みがあり、生徒の関心の高さが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 講師を呼ぶ行事について、その教育的効果を高めるために選出方法などを確立していく必要がある。 ② 生徒によって動画の視聴状況に大きな差があり、各自にあった学習方法を自ら見つけるためのサポートが必要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 動画視聴状況についてのフィードバックのデータを十分活用し、個々の生徒への声かけを怠らずに、学習を進めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① データを活用することは可能であるので、今後生徒にどのようにフィードバックし、有効な活用について取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① カレッジセミナーやエキスパートレクチャーの実施など外部講師を招く際には目的と教育効果に鑑み、幅広く意見を聞き選出する。
4	地域等との協働	家庭や地域社会の教育力の活用を推進し協働することで信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ① 信頼される学校づくりを推進するために、地域との連携を深める。 ② 高大連携を通して交流を深めるとともに主体的・能動的に学習に取り組む姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 隣接する二谷小学校やみどり養護学校と連携した活動を、部活動・同好会や有志を募り、行う。また自治会長や学校周囲の個別訪問により、スポーツ大会や翔鷗祭の準備と当日の教育活動について、理解と協力を得る。 ② 受動的な出前授業だけではなく、積極的かつ意欲的に取り組み連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 取り組みを通して、信頼される学校づくりを推進できたか。 ② 高大連携のテーマに即して積極的に活動できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ESSや吹奏楽部による二谷小学校児童との交流や、みどり養護学校の運営に関するボランティア活動を通して社会性や協調性を育成することができた。 ② 杏林大学との新たな高大連携の協約を締結し、海外進学希望者に対する学習指導と学力の向上に取り組むと共に地域の教育力活用に積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 更に発展させるための取り組みとして、みどり養護の職員と話し合いの機会を持ち、来年度以降の交流機会の拡大について検討した。 ② 既存の高大連携校との交流が聴講生だけで終わることなく交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 防災訓練についても地域との連携をはかっていたきたい。 ② 大学との連携でライティングセンターのプログラムを活用するなど、積極的な取り組みを、今後継続し発展させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 隣に神奈川工業高校と二谷小学校があるので防災の観点から様々な連携のあり方について取り組むことが課題である。 ② 今年あらたに大学と協定し、英語習得につき4技能重視の流れに鑑み、特にライティング能力の向上に繋がる取り組みを始めた。引続き、高大連携の充実に工夫を凝らすことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域防災の観点から地域住民と連携した防災訓練の実施に向け取り組む。 ② 高大連携の推進につき担当者を決め、計画的な活動内容と校内の体制の整備に取り組む。
5	学校管理 学校運営	社会の変化に対応し、意欲的に教育の課題に取り組む学校体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員一人ひとりが事故・不祥事の防止に取り組む意識を持ち、常に複数体制で業務にあたる。 ② 本校のさまざまな取り組みをHP等で発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事故・不祥事防止研修会を各グループが企画し、時期に合わせて実施する。 ② HP、広報誌等での広報活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事故・不祥事の防止に職員が自分のこととして意識し、取り組んだか。 ② 迅速かつわかりやすい情報発信ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事故・不祥事防止研修会を各グループが企画し、時期にあわせて実施することで、職員の意識啓発ができた。 ② 本校のHPを携帯電話等でも容易に閲覧しやすい内容にリニューアルすることで、教育活動を迅速かつ効果的に地域社会に発信することができるよう工夫を凝らした。また多言語による発信も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① この形態を今後も踏襲し、事故・不祥事の防止に努める。 ② より迅速な情報発信に努め、広報活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ホームページのトップイメージ画像が美しく見やすくなった。更新頻度や内容の充実にも今後も努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① HPを携帯電話でも容易に閲覧しやすいようにリニューアルすることで、教育活動を効果的に地域社会に発信する工夫を凝らした。今後引き続き、迅速な情報発信に努め広報活動の充実が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事故・不祥事の防止に職員が当事者意識を持ち、意欲的に取り組む学校体制の充実を図る。 ② 迅速な情報発信と更新を滞ることなく行い、地域住民の学校教育活動の理解に繋げる。